



[本となかよしのページへ](#)

分類：生物一般

『小さくてふしぎなウイルスのひみつくのぞいてみようウイルス・細菌・真菌図鑑1』  
北元憲利／著、ミネルヴァ書房 2014年10月 本体価格 2800円



「ウイルス」について、順を追って説明してくれます。小学校高学年の子どもが読んでわかるように、文字にはルビがあり、カラーの大きなイラストが理解を助けてくれます。

本を広げると、まず、ウイルスの大きさが一目でわかるスケールが描かれています。アリ、髪の毛、アスペルギルス（真菌のかび）、大腸菌（細菌）、インフルエンザウイルス、DNAが、100ミリメートルから1ナノメートルまで10分の1ごとに印を打たれたスケール上に描かれています。ウイルスがいかに小さいかがわかります。

ウイルスと細菌や真菌との違い、ウイルスとワクチンの発見の歴史、スペイン風邪の流行の状況、ウイルスのつくり、免疫のしくみ、ウイルスの細胞へのとりつき方、伝わり方、進化のしかた、そして30種ものウイルスについて一つずつ説明があります。裏表紙の見返し全体に描かれた世界地図には、いつ、どこで、どんなウイルスが大きな事件を起したか、が描かれています。

同じ著者の『もっと知りたい！微生物大図鑑1 なぞがいっぱいウイルスの世界』（ミネルヴァ書房 2015年10月 定価2800円）には、コロナウイルス、感染症の広がりを防ぐ学校のルール、感染症の侵入を防ぐルール、ウイルスの検査方法のPCR法のしくみについても説明があります。あわせて読むと、さらに理解が深まるでしょう。子どもの科学の本は、大人のための入門書にもなります。

科学読物研究会 坂口美佳子